



こんにちは

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです！

2025年

8.31

No.1107



競争・管理教育が子どもの命を奪う

日本共産党は「子どもも保護者も安心できる支援を。子どもを人間として大切にする学校を」と題する『不登校についての提言』を発表しています。『提言』にもとづいて、あらためて不登校についていろいろ調べてみると、頭の中に電流が流れるような強い衝撃を受ける発見がありました。それは、福井県議会の意見書です。

意見書の正式名称は【福井県教育行政の根本的見直しを求める意見書】で、2017年12月に“全会派一致”で採択しています。同年3月に中学2年生の男子生徒が校舎から飛び降り自殺したことを受け、県の教育委員会に対し教育行政の見直しを求めたものです。

【意見書】の内容を抜粋して紹介します。「教員は子ども1人ひとりに向き合い、みんなが楽しく学ぶことができる学校づくりを推進する意欲を持っているはずですが、最長月200時間を超える超過勤務があるなど、教員の勤務実態は依

然と多忙である」「（この事件で）学校の対応が問題視された背景には、学力を求めるあまりの業務多忙もしくは教育目的を取り違えることにより、教員が子どもたちに適切に対応する精神的なゆとりを失っている状況があったのではないかと懸念するものである」「“学力日本一”を維持することが本県全域において教育現場に無言のプレッシャーを与え、教員、生徒双方のストレスの要因になったと考える」とし、過度な学力偏重を避けることや、教員の多忙化解消などを要望しています。

福井県は、『全国学力テスト』で常に上位に位置しています。それは誇れることでなく、むしろ教育を歪めてしまうことだと、県議会では党派を超え、真剣に腹を割った議論をしたのだらうと推測します。

苦小牧市は『全国学力テスト』の回答率が全国平均より低いことから、苦小牧市議会では「先進都市を見習え」「先進都市に行って学んで来い」などの発言が、複数の他会派から発せられ、競争教育を煽ってきました。それこそ、「福井県議会を見習え」という思いです。

『不登校についての提言』でも、教員の多忙化、学力テストなど競争と管理教育が不登校の1つの要因だと指摘しています。『全国学力テスト』はもちろん、市独自の学力検査の在り方を見直すべきだと、自分を戒めています。子どもを人間として大切にする学校を目指して。